

講評

2018年度院生優秀論文賞 授賞作品

- ① 今川智美(大阪大学大学院)「ヤクルトレディはなぜ新興国で有効なのか:制度の隙間の視点から」(『国際ビジネス研究』第10巻第2号)
- ② 祁岩(早稲田大学大学院)「中小企業におけるHRM-FP(Firm Performance)—中国中小企業の実証研究」(『国際ビジネス研究』第10巻第2号)

学会賞委員長 安室憲一
(兵庫県立大学名誉教授)

- ① 今井論文は、ヤクルトを事例に、新興国への事業展開に際し、「ヤクルトレディ」という独特の販売システムが成功した理由を明らかにしている。特に評価されるのは、第1点は、新興国市場戦略に関する「制度の隙間」という分析フレームワークを適用し、詳細な実態分析を行ったことである。第2点は、ヤクルト本社並びに4つの海外拠点をインタビュー調査し、学術性の高い定性的データを収集したことである。第3点は、上記のフレームワークと定性的データを駆使して、ヤクルトレディがなぜ新興国で有効なのかを論証したことである。これは新興国研究と実務に対して多大な貢献となっている。この中で、日本人駐在員はどのような役割を果たしたか、ヤクルトの経営理念の浸透にどのような努力が払われたのかは、十分に解明されていない。研究課題を一つに定め、深く追求し、世界各国の子会社や販売店を実地調査するといったエスノロジー的な研究手法が高く評価される。院生優秀論文賞の授与に値する業績である。
- ② 祁論文は、中国の中小企業を研究対象に設定し、人的資源管理の施作/システムとその成果、それらが企業業績に与える影響について検証したものである。研究方法としては、先行研究を精査し、そこから主要課題を抽出し、それを踏まえて仮説を立て、綿密なアンケート調査によってデータを集積し、精緻な統計分析で仮説を検証している。分析方法、論理の組立と展開、諸結果の解釈と説明などにぎこちなさがあり、何度も読み返さないと趣旨が理解できないという課題はあるが、オーソドックスなジャーナル論文として評価できる。特に、中国の中小企業(遼寧省朝陽市)に焦点を合わせた研究は数が少なく、高く評価できる。今後の課題として、インタビュー調査の成果を論文に反映すること。また、検証結果を生かして実務的なインプリケーションに導くことである。また、中国の独特な人事・労務管理の調査結果への影響も考慮してほしい。こうした課題はあるものの、注目すべき労作である。院生優秀論文として評価したい。

以上